

演技審査 課題 「王子」役

王子とツバメの会話

シーン1 王子は、自分のことが見えないツバメに対して、自分の存在に気づいてもらおうと必死に説得する

王子

ぼくはね、さっきから君の近くにいるんだ。

きみと同じ大きさで、君のすぐ隣に、・・・いるんだ。

つまりね、要するに、ぼくの魂というか、その・・・なんていうか心というか、ぼくにもよくわからないんだー

返答しないツバメに自分の存在をアピールする

王子

あーあ、無視されるのってすごく悲しいんだね。はじめてわかったよ！・・・ああああ、ぼくはもう死んだのとおなじだあー！ どうすればいいんだああ

シーン2

目が見えなくなってしまった王子。

ツバメは貧しい人たちに王子像の金箔を届け続けている。しかし季節はツバメには厳しい冬が訪れる

王子

ツバメさん、大丈夫かい？もうすっかり寒くなってきた。

ぼくは大丈夫。君がこの街のことをいろいろ教えてくれるし、ポッカポカだよ。・・・でもね、わかってる。はがす金が全部なくなっただら？もう届けるものが、ぼくにはないんだ。だから、君も、もうここにいらなくてもいいんだよ。

・・・ありがと・・・

さあ、はやく行って。君の身体のほうが心配なんだ。

・・・また来年、会いに来てくれるかい？